



ほんごう一彦 県政報告 (平成24年7月)

(発行) 自由民主党県議団松本第2支部
松本市芳川小屋1138
TEL: 0263-85-5153, FAX: 0263-85-5160
http://h-kazuhiko.jp

21世紀の新しいビジョンの創造にむけて

戦後67年が経過後、現在日本は成熟国家として21世紀の新しい社会の格的に造り出さなければならぬ。国際社会は政治経済的にも極めて不安定であり、冷戦構造崩壊以後、一層多極化が進み、新たな秩序の方向性が全く見通せない深刻な位置づけにある。日本自身は、失われた20年から30年とも指摘される如く、政治の劣化、経済の低迷、財政危機、少子高齢化社会、地方の疲弊等、課題は山積し、抜本的な針を明確にし、ナリオさえも現実に味を帯びてきております。

戦後67年が経過後、現在日本は成熟国家として21世紀の新しい社会の格的に造り出さなければならぬ。国際社会は政治経済的にも極めて不安定であり、冷戦構造崩壊以後、一層多極化が進み、新たな秩序の方向性が全く見通せない深刻な位置づけにある。日本自身は、失われた20年から30年とも指摘される如く、政治の劣化、経済の低迷、財政危機、少子高齢化社会、地方の疲弊等、課題は山積し、抜本的な針を明確にし、ナリオさえも現実に味を帯びてきております。

備。これらにより労働生産性を高め、高付加価値の成長分野に新たな雇用を発生させなければなりません。生産労働人口の減少問題に關しては、都市国家の規模であるモデル国家シंगाポールにおいて、も、現役世代が減少傾向である事実を見ても、豊かな生活を達成した国は出生率は低落到る生物学的事象であります。現象であり、かつ、金融緩和、イノベーションに努力しながら、成長路線の軌道に乗れない状況に對し、戦略的に解決策を抜本的に磨き上げなければなりません。人口減少に對する現実認識の希薄性は各分野において、従来マクロ的視点での政治経済的論を越えた新しい経済社会の創造こそ、今の政治に課せられた最大なる責任と思われ、てなりません。

最近の政務活動レポート



6月定例県議会に向けて議長と各派代表者会議。



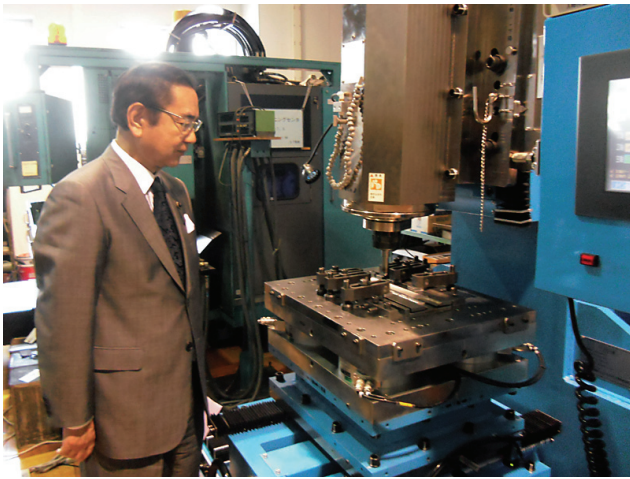
阿部知事に対し6月定例県議会に向けての主要課題について意見を述べる(中期総合計画、経済雇用対策等)。



6月定例県議会に向けて知事と各派代表者会議。



県環境保全研究所放射能測定装置を視察。



県工業技術総合センターにて摩擦攪拌装置を視察。



県工業技術総合センターにて、ハイブリット原子間力顕微鏡見学。



阿部知事と地元市町村長との意見交換会に出席。



現代作家代表作展会場にて。



裏千家中信青年部総会にて顧問として茶道文化について挨拶。

長野県議会議員
自由民主党県議団
団長 本郷一彦

○計画策定の趣旨

私達は、今、時代の大きな転換点に立ち、今までの暮らし方を見つめ直すとともに豊かさや幸せの新たな尺度が求められている。この計画により、長野県の将来像を県民と共有し、一緒に創り上げるための方向性や方策を明らかにする。

○計画の性格

直面する課題に向き合い、めざす姿への確かな一歩を踏み出す県政運営の基本となる総合計画

○計画の期間

平成25～29年度
(5か年間)

◎第1編 現状認識

○時代の潮流と課題

1 到来した人口減少社会

日本の総人口は、近年横ばいで推移しており今後は減少する見込み。
長野県では、平成13年から人口が減少し、今後20年ほどで約30万人減少する見込み。特に中山間地域などで急激に人口減少や高齢化が進行し、地域によっては、将来集落機能の維持が困難になることが懸念される。
→人口減少スパイラルを断ち切るとともに、人口減少社会・高齢社会にあって、どのように高齢者を支え、社会の活力を維持していくかが課題

2 価値観の変化

人々の価値観が変化し、モノの豊かさに加え精神的な満足感や暮らしのゆとりを重視するようになっている。また、東日本大震災の発生を契機に、人々は生き方を見つめ直し、家族や地域社会とのつながりをより重視するよう価値観を変化させた。
→価値観の変化を的確に捉え、長野県のポテンシャルを活かして、それぞれの多様なライフスタイルが実現できる社会をいかに創造していくかが課題

3 成熟した経済

日本経済は旺盛な内需の拡大により成長してきたが、物質的な豊かさが相当程度実現された上、今後人口が減少していくことから、かつてのような国内需要の大幅な伸びは期待できない。
長野県経済は、円高の進行やアジア諸国の工業力の台頭に伴い、主力となる製造業が生産拠点の海外移転をせまられ厳しい状況が続いている。
→国内需要の大幅な伸びが見込めず、海外との競争が激化する中において、どのように長野県経済の活力を維持していくかが課題

4 変革が求められる社会システム

少子高齢化社会の到来により社会保障制度や国や地方の財政基盤の持続可能性が危ぶまれている。また、東日本大震災により、現代社会の脆弱性が明らかになった。
→これまでの発想の延長線上だけでは解決できない課題が生じている中において、高い経済成長に依存したシステムからの転換を図り、県民が自ら考え行動しともに支え合い持続可能な社会を創造していくことが課題

○長野県のポテンシャル

1 大地から与えられた恵み

(1) 美しく豊かな自然環境
豊かな自然や美しい景観に囲まれ、太陽光や水力、バイオマスなど豊富な自然エネルギーが潜在している。
(2) 大都市圏への近さ・交通の結節点
日本の真ん中に位置し、首都圏・中京圏から比較的近く、東・西日本、太平洋側と日本海側をつなぐ結節点として交通の要衝となっている。

2 先人が築いてきた努力の賜

(1) 全国トップレベルの健康長寿
平均寿命や高齢者の就業率が高く、年齢調整死亡率が全国最低である全国トップレベルの健康長寿県となっている。
(2) 教育を大切にす風土と県民性
明治期以前からの教育熱心な県民性、身近な公民館活動などを通じ、教育を大切にする風土と県民性が育まれている。
(3) 伝統を受け継ぐ地域
地域ごとに有形無形の多様な文化を受け継ぎ、地域の誇りを守り育てている。
(4) 企業家精神を育む土壌
時代の変化に柔軟かつ果敢に挑戦する企業家精神が、地域の中で受け継がれている。

3 際立つ地域の個性

「大地から与えられた恵み」と「先人が築いてきた努力の賜」が重なり合って、様々な表情を持つ多様な地域が、信州の魅力を引き上げている。

◎第2編 長期的な県づくりの方向

○20年後の信州に向けて

～『信州』を磨く。～

- ・従来の延長線上だけでは課題の解決ができない難しい時代
- ・一方で、ゆとりある暮らしやつながりを重視するなど人々の価値観の変化
- ・このような時代には、数多くの信州の優れた特徴が輝きを増す可能性
- ・信州の良さを県民一人ひとりがさらに磨き上げることで、新たな価値を創造していくことが可能
- ・20年後の信州に向けて私たちは、確かな暮らしが営まれる、質が高く、持続可能な信州を創造

○基本目標

(仮) 確かな暮らしが営まれる美しい信州

○20年後のめざす姿

● (テーマ)

● (テーマ)

● (テーマ)

● (テーマ)

● (テーマ)

(世界への貢献)
世界との相互依存が深まる中で、地域の知恵や資源を活かして信州が世界に貢献している。

(ゆとりのライフスタイル)
豊かな自然や伝統と最先端の技術が調和した、ゆとりある暮らしやすい信州となっている。

(居場所と出番)
誰もが等しく社会からその存在を認められ、自らの可能性に挑戦し、自分らしく生きている。

(世界一の健康長寿)
世界に誇れる健康長寿先進県が、将来にわたり継承・発展している。

(教育立県)
子どもたちの学ぶ意欲を高める教育の推進により、個々の持つ能力を社会の中で発揮できる教育が実現している。

(世界をリードする最先端産業)
・新たな成長分野で信州の産業が世界をリードしている。
(世界品質の農産物)
・市場のニーズにあった高品質の農産物が世界から高く評価されている。
(世界に選ばれる信州の魅力)
・信州の自然や伝統文化などが高く評価され、そのすばらしさが知れわたり、海外から多くの人々が訪れている。
(知の拠点)
・企業・大学の研究機能が充実し、世界レベルの知恵や技術が集う拠点となっている。

(楽園信州)
・美しい自然や景観、文化など個性豊かな地域の魅力を、多くの人々が楽しんでいる。
(感動との出会い)
・文化芸術やスポーツなど人生に彩りを与える環境が整っている。
(自然のお裾分け)
・環境に配慮した生活が徹底されるとともに、自然エネルギーの地産地消が実現している。
(どこでもドアの信州)
・情報通信技術の活用や交通基盤の維持・整備、安全の確保などにより、どこでも快適な暮らしが確保されている。

(100%の自己実現)
・若者から高齢者まで、女性も男性も、全ての県民が一人ひとりの能力を発揮し、職場や地域で活躍している。
(子育て先進県)
・安心して子どもを産み育てられ、子どもが伸び伸びと育つ家庭や社会が実現している。
(あんしん社会)
・全ての県民が必要な福祉サービスの提供を受けている。

(世界一の健康づくり)
・一人ひとりが健康づくりに取り組み、県民が元気に暮らしている。
(生きがいが生み出す元気な暮らし)
・一人ひとりが仕事と家庭の両立に心掛け、心身の健康が保たれている。
(世界に誇る保健活動・医療)
・保健活動や医療などが充実し、県民の健康で生き生きとした暮らしを支えている。

(人間力を養う)
・子どもたちが確かな学力と人間性を身につけている。
(行きたくなる学校)
・全ての子どもが満足感を持って学校生活を送っている。
(自然の中でたくましく)
・子どもたちが自ら進んで運動に親しみ、基礎体力が向上している。
(個性輝く)
・障害の有無などに関わらず支援を必要とする子どもたちへの教育体制が整備されている。
(常に学び続ける)
・誰もが生涯を通じて学び自らを高めることで、人生を充実させている。

○ 社会の仕組み

・分厚い層が支える共創・協働の社会

・信州独自の自治による自立度の高い地域

・交流・連携を深めるネットワーク型社会

- 県民共有目標(「20年後のめざす姿」を表す数値目標などを検討)
- 現状とのギャップと克服すべき課題

(5年間の取組)

◎第3編 重点的に取り組むプロジェクト

(「20年後のめざす姿」の実現に向け、最初の5か年間(計画期間)で特に重点的に取り組む施策(5年間で達成すべきもの、中長期で達成すべきもの))

(プロジェクトの例) ・健康長寿日本一プロジェクト ・エネルギー自給プロジェクト ・強みを活かした長野県観光推進プロジェクト

◎第4編 県づくりのための基本施策

(政策分野の例) ・産業・雇用 ・地域づくり ・環境 ・安全・安心 ・社会基盤 ・健康・福祉 ・教育・子育て

◎第5編 各地域が目指す方向との方策

(県内10地域ごとの目指す方向と方策)

◎第6編 計画を推進するための基本姿勢

・行政・財政改革の推進 ・市町村との協働 ・政策評価・事業点検による実効性の確保